

歯科総合演習（3年）

責任者・コーディネーター	生化学講座（細胞情報科学分野） 石崎 明 教授				
担当講座（分野）	歯学部基礎講座（全分野）、予防歯科学分野、う蝕治療学分野				
対象学年	3	区分・時間数 (1コマ2時間換算)	講義/演習	実習	
期間	通期		前期	26.0時間	—
			後期	42.0時間	—

学修方針（講義概要等）

3年次前期までに履修する歯科医学（解剖学、組織学・発生学、生理学、生化学、病理学、薬理学、微生物学・免疫学、歯科理工学、衛生学・公衆衛生学、予防歯科学、保存修復学等）における重要点の理解度を深めるため、2クール制の集中講義やICTを活用した繰り返し演習を実施する。本科目の修得により、4年次に履修する歯科総合演習（4年）を受講するための基礎学力を養い、臨床参加型実習を履修するために必要且つ十分な基礎歯科学的知識基盤の確立を目指す。

教育成果（アウトカム）

3年次前期までに履修する歯科医学（解剖学、組織学・発生学、生理学、生化学、病理学、薬理学、微生物学・免疫学、歯科理工学、衛生学・公衆衛生学、予防歯科学、保存修復学等）についてICTを活用した演習試験をCBTに近い環境で体験することにより、歯科医学専門科目を復習し、歯科医学のコアで修得すべき内容が実際に身につけていることを3年次の段階で早期に再確認できる。また、診療参加型臨床実習を行うに足る十分な基礎歯科医学領域の知識を確実に身につけることができる。

（関連するディプロマポリシー：4）

到達目標（SB0s）

診療参加型臨床実習を行うに足る歯科医学の知識の修得とその応用力が身につけているかどうかは、第4学年で受験する歯学生共用試験CBTに合格することで証明される。そこで、歯科総合演習（3年）においては、以下の到達目標を設定する。

1. 歯科医学の診断や適切な治療法の選択を導き出すための基礎系科目で得た知識についての理解を深め、その知識を臨床実習の現場で応用することができる。
2. 診断や歯科治療を実践するための臨床系科目で得た知識についての理解を深め、その知識を臨床実習の現場での基本的な診断や歯科治療の実践に役立てることができる。

事前事後学修の具体的内容及び時間

事前学修（予習）は、シラバスに記載されている各回の演習・試験内容に関し教科書を用いて調べるものとし、各回40分程度を要する。事後学習は、各回の演習・試験内容について、授業当日の配布資料等を復習して、理解を深めるものとし、各回40分程度を要する。

（事前学修：平均40分を要する 事後学修：平均40分を要する）

講義/演習日程表①

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [コア・カリキュラム] 事前事後学修
講義	7/2 (木)	3	入江太朗教授 (病理学講座・病態 解析学分野)	1. 病理総論前半 病因論・代謝障害・循環障害について理解する。	1. 病理学序論、病因論について説明できる。 2. 細胞傷害の機序についてその概略を説明できる。 3. 代謝障害についてその概略を説明できる。 4. 循環障害についてその概略を説明できる。 [A-5-1全般, A-5-2全般, A-5-4全般] 事前学修：到達目標の内容について各自調べておくこと。所要時間40分程度。 事後学修：当日配布資料にて講義内容を復習し、その概要を説明できるようになること。所要時間40分程度。
講義	7/3 (金)	1	横田聖司講師 (生化学講座・細胞 情報科学分野)	統合講義 I 遺伝子・細胞構造について理解する	1. 遺伝子の構造と機能及び遺伝の基本的機序が説明できる。 2. 細胞の基本構造と機能及び増殖と分化機構を説明できる。 [A-1-2全般, A-1-3全般, A-1-4全般] 事前学修：1年次後期～2年次生化学講義で配布された資料について見直しておくこと。所要時間40分程度。 事後学修：講義プリントの復習を行うこと。所要時間40分程度。
講義	7/3 (金)	2	横田聖司講師 (生化学講座・細胞 情報科学分野)	統合講義 II 三大栄養素・生体構成成分について理解する	1. 糖質・脂質・タンパク質の構造と代謝について説明できる。 2. 酵素・ビタミンについて説明できる。 [A-1-2全般, A-1-3全般, A-1-4全般] 事前学修：1年次後期～2年次生化学講義で配布された資料について見直しておくこと。所要時間40分程度。 事後学修：講義プリントの復習を行うこと。所要時間は各40分程度

講義	7/9 (木)	3	佐々木かおり助教 (医療工学講座)	1. 歯科精密鑄造に用いる材料 2. 義歯床製作に用いる材料 歯冠修復物、義歯床の製作過程とそれに用いる材料の特徴を復習する。	1. 歯科精密鑄造の過程を説明できる。 2. 歯科精密鑄造で用いる材料の具備すべき特徴を説明できる。 3. 義歯床の製作過程を説明できる。 4. 義歯床で用いる材料の具備すべき特徴を説明できる。 [B-2全般, B-3全般] 事前学修：到達目標の内容について各自調べておくこと。所要時間40分程度。 事後学修：当日配布資料にて講義内容を復習し、その概要を説明できるようになること。所要時間40分程度。
講義	7/10 (金)	1	大津圭史教授 (解剖学講座・発生生物・再生医学分野)	組織学総論 人体を構成するさまざまな細胞、組織の特徴について理解できる。	1. 人体の構造の概略について説明できる。 2. 人体を構成する組織の種類とその特徴を説明できる。 3. 人体の構造と細胞の関係について概説できる。 [A-3-1全般] 事前学修：到達目標の内容について各自調べておくこと。所要時間40分程度。 事後学修：当日配布資料にて講義内容を復習し、その概要を説明できるようになること。所要時間40分程度。
講義	7/10 (金)	2	大津圭史教授 (解剖学講座・発生生物・再生医学分野)	組織学各論 人体を構成するさまざまな細胞、組織の特徴について理解できる。	1. 人体の構造の概略について説明できる。 2. 人体を構成する組織の種類とその特徴を説明できる。 3. 人体の構造と細胞の関係について概説できる。 [A-3-1全般] 事前学修：到達目標の内容について各自調べておくこと。所要時間40分程度。 事後学修：当日配布資料にて講義内容を復習し、その概要を説明できるようになること。所要時間40分程度。
講義	7/16 (木)	3	田村晴希講師 (薬理学講座・病態制御学分野)	薬理学I 薬物の作用機序、有害反応、薬物動態、臨床適応	薬物の作用機序、有害反応、薬物動態、臨床適応を説明できる。 [A-1-6-1全般, A-1-6-2全般, A-1-6-3全般] 事前学修：到達目標の内容について各自調べておくこと。所要時間40分程度。 事後学修：当日配布資料にて講義内容を復習し、その概要を説明できるようになること。所要時間40分程度。

講義	7/17 (金)	1	黒瀬雅之教授 (生理学講座・病態 生理学分野)	細胞膜の物質輸送と受容 膜輸送と受容体機構を 図解で徹底整理する。	1. 拡散と能動輸送を図示できる。 2. 能動輸送の仕組みを説明できる。 3. 受容体の種類と伝達を識別できる。 [A-1-4] 事前学修：到達目標の内容について各自調べておくこと。所要時間40分程度。 事後学修：当日配布資料にて講義内容を復習し、その概要を説明できるようになること。所要時間40分程度。
講義	7/17 (金)	2	黒瀬雅之教授 (生理学講座・病態 生理学分野)	活動電位の発生と伝導 興奮の機序と伝導の法則をグラフで習得する。	1. イオン透過性と電位変化を図説し、説明できる。 2. 跳躍伝導と興奮伝導の法則並びに三原則を説明できる。 3. 局所麻酔薬作用部位を指摘できる。 [A-1-4, A-3-1-5] 事前学修：到達目標の内容について各自調べておくこと。所要時間40分程度。 事後学修：当日配布資料にて講義内容を復習し、その概要を説明できるようになること。所要時間40分程度。
講義	7/24 (金)	1	吉岡望准教授 (解剖学講座・機能 形態学分野)	1. 全身、頭頸部の骨学 全身、頭頸部を構成する骨の配置、形態的特徴、関節について理解する。	1. 頭蓋を構成する骨についてその周囲との関連性と形態を説明できる。 2. 全身の主要な骨の構成を説明できる。 [A-3全般] 事前学習：到達目標の内容について各自調べておくこと。所要時間40分程度。 事後学習：当日配布資料にて講義内容を復習し、その概要を説明できるようになること。所要時間40分程度。
講義	7/24 (金)	2	吉岡望准教授 (解剖学講座・機能 形態学分野)	1. 全身、頭頸部の筋学 全身、頭頸部の筋の走行と支配神経について三次元的に理解する。	1. 全身の主要な筋の走行を説明できる。 2. 表情筋、咀嚼筋を含めた頸部の筋の走行と機能、神経支配について説明できる。 [A-3全般] 事前学習：到達目標の内容について各自調べておくこと。所要時間40分程度。 事後学習：当日配布資料にて講義内容を復習し、その概要を説明できるようになること。所要時間40分程度。

講義	7/24 (金)	3	三浦利貴助教 (微生物学講座・分子微生物学分野)	1. 細菌学各論 2. ウイルス学各論 病原微生物の性状とそれによる感染症およびその病原因子を理解する。	1. 微生物の構造・性状を説明できる。 2. 感染の概念と感染症を説明できる。 3. 病原細菌の性状を説明できる。 4. ウイルスの性状を説明できる。 [A-4-1全般] 事前学修：到達目標の内容について各自調べておくこと。所要時間40分程度。 事後学修：当日配布資料にて講義内容を復習し、その概要を説明できるようになること。所要時間40分程度。
講義	8/21 (金)	1	岸 光男客員教授 (口腔医学講座・予防歯科学分野)	1. 統計分析法 2. スクリーニング 3. 人口統計 統計分析法を学修することにより、スクリーニング、人口統計への理解が深まる。	1. 統計学的分析法を説明できる。 2. スクリーニング検査を説明できる。 3. 人口統計を説明できる。 [C-6全般] 事前学修：到達目標の内容について各自調べておくこと。所要時間40分程度。 事後学修：当日配布資料にて講義内容を復習し、その概要を説明できるようになること。所要時間40分程度。
	9/4 (金)		前期試験	前期総合試験	2年生で終了した科目：解剖学Ⅱ、組織学、生理学Ⅱ、生化学Ⅱ、衛生・公衆衛生学（2年生 前・後期 全範囲） 3年生前期で終了した科目：微生物学・免疫学Ⅱ、歯科理工学Ⅱ、口腔病理学、予防歯科学、保存修復学（3年生 前期までの全範囲） 3年生後期に継続する科目：薬理学、歯科放射線学、医科学（3年）（3年生 前期までの範囲）

講義/演習日程表②

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [コア・カリキュラム] 事前事後学修
講義	9/14 (月)	2	三浦利貴助教 (微生物学講座・分子微生物学分野)	1. 免疫学 生体防御の仕組みを理解する。	1. 免疫応答に関与する器官と細胞を説明できる。 2. 微生物の認識機構と排除機構を説明できる。 3. 自然免疫と獲得免疫を説明できる。 [A-4-2全般] 事前学修：到達目標の内容について各自調べておくこと。所要時間40分程度。 事後学修：当日配布資料にて講義内容を復習し、その概要を説明できるようになること。所要時間40分程度。
講義	9/28 (月)	1	横田聖司講師 (生化学講座・細胞情報科学分野)	統合講義Ⅱ 1. 結合組織について理解する。 2. 硬組織について理解する。	1. 細胞外マトリックス・MMPについて説明できる。 2. 骨代謝のメカニズム・血清カルシウム調整について説明できる。 [A-1-5全般, A-3-1-2全般] 事前学修：1年次後期～2年次生化学講義で配布された資料について見直しておくこと。所要時間40分程度。 事後学修：講義プリントの復習を行うこと。所要時間40分程度。
講義	9/28 (月)	2	横田聖司講師 (生化学講座・細胞情報科学分野)	統合講義Ⅲ 1. 唾液について理解する。 2. 炎症について理解する。 3. ペリクル・プラークについて理解する。	1. 唾液の作用について説明できる。 2. 自然免疫と獲得免疫・ケミカルメディエーターについて説明できる。 3. ペリクル・プラークの形成過程、細菌による代謝を説明できる。 [A-3-3-6, A-5-5-2, D-3-2-4] 事前学修：1年次後期～2年次生化学講義で配布された資料について見直しておくこと。所要時間40分程度。 事後学修：講義プリントの復習を行うこと。所要時間40分程度。
講義	10/5 (月)	1	大津圭史教授 (解剖学講座・発生生物学・再生医学分野)	発生学(一般、顎顔面) 人体の初期発生過程について理解する。 顎・顔面の形成について理解する。	1. 人体の初期発生過程を説明できる。 2. 顎顔面の発生過程を説明できる。 3. 歯、歯周組織の発生過程を説明できる。 [A-2全般] 事前学修：到達目標の内容について各自調べておくこと。所要時間40分程度。 事後学修：当日配布資料にて講義内容を復習し、その概要を説明できるようになること。所要時間40分程度。

講義	10/5 (月)	2	大津圭史教授 (解剖学講座・発生 生物・再生医学分 野)	口腔組織学 歯、歯周組織、口腔粘 膜、顎関節、唾液腺の 組織構造と特徴を理解 する。	1. 歯、歯周組織、口腔粘膜、顎関 節、唾液腺の組織構造と特徴につ いて説明できる。 [A-3-3全般, A-3-4全般] 事前学修：到達目標の内容について 各自調べておくこと。所要時間40分 程度。 事後学修：当日配布資料にて講義内 容を復習し、その概要を説明でき ようになること。所要時間40分程 度。
講義	10/19 (月)	1	黒瀬雅之教授 (生理学講座・病態 生理学分野)	神経伝達と自律神経系 シナプス伝達と自律神 経の拮抗支配を学ぶ。	1. 神経伝達物質と受容体の対を列 挙できる。 2. 交感・副交感神経の作用を比較 できる。 3. 節前・節後神経の走行を図解で きる。 [A-1-4, A-3-1-5] 事前学修：到達目標の内容について 各自調べておくこと。所要時間40分 程度。 事後学修：当日配布資料にて講義内 容を復習し、その概要を説明でき ようになること。所要時間40分程 度。
講義	10/19 (月)	2	黒瀬雅之教授 (生理学講座・病態 生理学分野)	筋肉の収縮メカニズム 骨格筋と平滑筋の収縮 過程を模型的に理解す る。	1. 興奮収縮連関の全プロセスを説 明できる。 2. 滑り説とクロスブリッジを記述 できる。 3. 骨格筋と平滑筋の構造差を識別 できる。 [A-3-1-3] 事前学修：到達目標の内容について 各自調べておくこと。所要時間40分 程度。 事後学修：当日配布資料にて講義内 容を復習し、その概要を説明でき ようになること。所要時間40分程 度。
講義	10/26 (月)	1	浅野明子准教授 (歯科保存学講座・ う蝕治療学分野)	硬組織疾患の病因・病 態 齲蝕、非齲蝕性硬組織 疾患を理解する。	1. 齲蝕、非齲蝕性硬組織疾患の病 因、病態を説明できる。 2. 硬組織疾患の検査法を説明でき る。 [A-2-4-8、D-3-2-1、D-3-2-5、 D-5-2-1-1] 事前学修：到達目標の内容について 各自調べておくこと。所要時間40分 程度。 事後学修：当日配布資料にて講義内 容を復習し、その概要を説明でき ようになること。所要時間40分程 度。

講義	10/26 (月)	2	浅野明子准教授 (歯科保存学講座・ う蝕治療学分野)	窩洞形態の基本 接着修復と間接修復の 窩洞形態を理解する。	1. 窩洞の原則を説明できる。 2. 接着修復と間接修復の窩洞形態の 違いを説明できる。 [D-5-2-1-6] 事前学修：到達目標の内容について 各自調べておくこと。所要時間40分 程度。 事後学修：当日配布資料にて講義内 容を復習し、その概要を説明でき ようになること。所要時間40分程 度。
講義	11/2 (月)	1	藤原尚樹教授 (解剖学講座・機能 形態学分野)	1. 全身、頭頸部の脈管 学のまとめ 2. 歯の解剖学 全身、頭頸部の動脈・ 静脈に関する走行経路 や分布範囲について理 解する。 歯の形態に関する基本 的構造を理解する。	1. 外頸動脈とその枝の走行と分布範 囲について説明できる。 2. 心臓の構造と周辺の血管との関係 性を説明できる。 3. 診療に用いられる体循環の動脈、 静脈の走行とそれらの連続性を説明 できる。 4. 永久歯と乳歯の各歯種の基本形態 と好発する異常形態を説明できる。 [A-3-1-4全般, A-3-4全般] 事前学修：到達目標の内容について 各自調べておくこと。所要時間40分 程度。 事後学修：当日配布資料にて講義内 容を復習し、その概要を説明でき ようになること。所要時間40分程 度。
講義	11/2 (月)	2	岸 光男客員教授 (口腔医学講座・予 防歯科学分野)	1. 地域保健総論 2. 地域保健各論 社会と歯学の学修後に 公衆衛生を学び直すこ とで、知識相互の関連 への理解が深まる。	1. プライマリヘルスケアとヘルス プロモーションを説明できる。 2. 地域保健行政組織を概説できる。 3. 母子保健、学校保健、産業保 健、成人保健に係わる検診を列挙 し、それぞれの特徴を説明できる。 4. 介護保険制度と介護予防事業を 区別して説明できる。 [C-4-1-2, C-4-2全般, C-4-3全般, C-5全般] 事前学修：到達目標の内容について 各自調べておくこと。所要時間40分 程度。 事後学修：当日配布資料にて講義内 容を復習し、その概要を説明でき ようになること。所要時間40分程 度。

講義	11/26 (木)	1	三浦利貴助教 (微生物学講座・分子微生物学分野)	1. 口腔細菌 口腔のフローラ、口腔細菌の性状およびう蝕・歯周疾患の成立・発症機序を理解する。	1. 口腔の常在微生物叢を説明できる。 2. 口腔微生物の性状を説明できる。 3. う蝕と歯周病の成立機序を説明できる。 [A-4-1全般、A-4-2全般、D-3-1-3-1、D-3-2-2, 3, 4、D-3-1-10-2、D-5-2-3-1] 事前学修：到達目標の内容について各自調べておくこと。所要時間40分程度。 事後学修：当日配布資料にて講義内容を復習し、その概要を説明できるようになること。所要時間40分程度。
講義	11/30 (月)	1	田村晴希講師 (薬理学講座・病態制御学分野)	薬理学II 薬物の作用機序、有害反応、薬物動態、臨床適応	薬物の作用機序、有害反応、薬物動態、臨床適応を説明できる。 [A-1-6-1全般、A-1-6-2全般、A-1-6-3全般] 事前学修：到達目標の内容について各自調べておくこと。所要時間40分程度。 事後学修：当日配布資料にて講義内容を復習し、その概要を説明できるようになること。所要時間40分程度。
講義	11/30 (月)	2	岸 光男客員教授 (口腔医学講座・予防歯科学分野)	1. 環境保健 2. 健康と栄養 3. 感染症の予防 社会と歯学の学修後に公衆衛生を学び直すことで、知識相互の関連への理解が深まる。	1. 主な環境指標を列挙できる。 2. 食事摂取基準と食事バランスガイドを説明できる。 3. 感染症の成立要因と要因ごとの予防法を説明できる。 [C-4-5, C-4-1-2, C-4-2-5, C-5-4, A-4-1-3-4・9, C-7-5] 事前学修：到達目標の内容について各自調べておくこと。所要時間40分程度。 事後学修：当日配布資料にて講義内容を復習し、その概要を説明できるようになること。所要時間40分程度。
講義	12/7 (月)	2	佐々木かおり助教 (医療工学講座)	1. 歯科材料の機械的、物理的性質 2. 成形修復材料 歯科材料が具備すべき機械的、物理的性質を理解する。	1. 歯科材料の応力-ひずみ曲線を説明できる。 2. 歯科材料の熱的性質を説明できる。 3. コンポジットレジンの特徴を説明できる。 4. グラスアイオノマーセメントの特徴を説明できる。 [A-1-1-3, B-1全般, B-2全般] 事前学修：到達目標の内容について各自調べておくこと。所要時間40分程度。 事後学修：当日配布資料にて講義内容を復習し、その概要を説明できるようになること。所要時間40分程度。

講義	12/10 (木)	1	佐藤俊郎准教授 (口腔医学講座・予防歯科学分野)	1. 齲蝕のリスクと予防 2. 歯周病のリスクと予防 代表的歯科疾患である齲蝕と歯周病のリスクに応じた予防法を理解する。	1. 齲蝕と歯周病のリスクを列挙できる。 2. 齲蝕と歯周病のリスクに応じた予防法を列挙できる。 [C-5-1~7] 事前学修：到達目標の内容について各自調べておくこと。所要時間40分程度。 事後学修：当日配布資料にて講義内容を復習し、その概要を説明できるようになること。所要時間40分程度。
講義	12/14 (月)	2	藤原尚樹教授 (解剖学講座・機能形態学分野)	1. 消化器の構造 2. 呼吸器の構造 口腔を含めた消化器の解剖学的特徴を理解する。 呼吸器、特に気道の解剖学的特徴と機能について三次元的に理解する。 摂食・嚥下に関わる構造を理解する。	1. 口腔・咽頭領域の区分を説明できる。 2. 口腔～直腸までの臓器の配列と特徴を説明できる。 3. 鼻腔～咽頭、肺までの呼吸器の構造と機能との関連性を説明できる。 [A-3-1-7全般, A-3-1-8全般] 事前学習：到達目標の内容について各自調べておくこと。所要時間40分程度。 事後学習：当日配布資料にて講義内容を復習し、その概要を説明できるようになること。所要時間40分程度。
講義	12/17 (木)	1	佐藤泰生講師 (病理学講座・病態解析学分野)	1. 病理総論後半 免疫異常・感染症・腫瘍・奇形について理解する。	1. 免疫異常についてその概略を説明できる。 2. 感染症についてその概略を説明できる。 3. 腫瘍についてその概略を説明できる。 4. 奇形についてその概略を説明できる。 [A-4-1-3, A-4-2-6, A-5-1-1, A-5-5, 6] 事前学修：到達目標の内容について各自調べておくこと。所要時間40分程度。 事後学修：当日配布資料にて講義内容を復習し、その概要を説明できるようになること。所要時間40分程度。
講義	12/21 (月)	2	田村晴希講師 (薬理学講座・病態制御学分野)	薬理学III 薬物の作用機序、有害反応、薬物動態、臨床適応	薬物の作用機序、有害反応、薬物動態、臨床適応を説明できる。 [A-1-6-1全般, A-1-6-2全般, A-1-6-3全般] 事前学修：到達目標の内容について各自調べておくこと。所要時間40分程度。 事後学修：当日配布資料にて講義内容を復習し、その概要を説明できるようになること。所要時間40分程度。

講義	12/24 (木)	1	入江太朗教授 (病理学講座・病態 解析学分野)	1. 病理総論の要点 2. 口腔病理学の要点 病理学総論・口腔病理 学の重要事項を整理し 理解する。	1. 病理学総論で学んだ重要事項に ついて説明できる。 2. 口腔病理学で学んだ重要事項に ついて説明できる。 [A-5全般] 事前学修：到達目標の内容について 各自調べておくこと。所要時間40分 程度。 事後学修：当日配布資料にて講義内 容を復習し、その概要を説明でき るようになること。所要時間40分程 度。
講義	1/7 (木)	1	武本真治教授 (医療工学講座)	1. 接着システム 2. 歯冠修復方法 歯冠修復方法を理解す る。	1. コンポジットレジン修復の手順 を説明できる。 2. 歯冠修復物の口腔内での装着方 法を説明できる。 [B-2-1, B-2-3, E-3-5-1全般] 事前学修：到達目標の内容について 各自調べておくこと。所要時間40分 程度。 事後学修：当日配布資料にて講義内 容を復習し、その概要を説明でき るようになること。所要時間40分程 度。
	1/21 (月)		後期試験	後期総合試験	2年生で終了した科目：解剖学Ⅱ、 組織学、生理学Ⅱ、生化学Ⅱ、衛 生・公衆衛生学（2年生 前・後期 全範囲） 3年生で終了した科目（3年生 前・後期全範囲）：微生物学・免疫 学Ⅱ、歯科理工学Ⅱ、口腔病理学、 予防歯科学、社会と歯学、歯科放射 線学、保存修復学、歯内療法学、歯 周病学、冠橋義歯学 4年生に継続する科目（3年後期ま での範囲）：医科学（3年）、全部 床義歯補綴学（Ⅰ）

教科書・参考書・推薦図書

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	口腔解剖学 第2版	井出吉信ほか 編	医歯薬出版	2018年
教	図説 歯の解剖学 第2版	高橋和人ほか 著	医歯薬出版	1998年
参	イラストで分かる歯科医学の基礎 第5版	村上秀明、天野修、大川由一、西村康、吉田篤 監修	末永書店	2025年
教	Ross組織学 原著7版	M. H. Ross, W. Pawlina 著、内山安男、相磯貞和 監訳	南江堂	2019年
教	口腔組織・発生学 第3版	前田健康ほか 編	医歯薬出版	2023年
教	カラーアトラス口腔組織発生学 第4版	明坂年隆ほか 著、磯川桂太郎、川崎堅三、柳澤孝彰 編	わかば出版	2016年
参	ネッター 解剖生理学アトラス 第7版	J. T. Hansen, B. M. Koepfen 著、相磯貞和、渡辺修一 訳	南江堂	2022年
教	基礎歯科生理学 第7版	岩田幸一、井上富雄、船橋誠、加藤隆史 編	医歯薬出版株式会社	2020年
参	生理学テキスト 第9版	大地陸男 著	文光堂	2022年
教	図解よくわかる生化学 第6版	中島邦夫ほか 著	南山堂	2004年
教	口腔生化学 第6版	高橋信博、石崎 明ほか 著	医歯薬出版	2018年
教	Essential細胞生物学 原書第5版 訳書	Alberts Bほか 著、中村桂子、松原謙一 監訳	南江堂	2021年
参	スタンダード生化学・口腔生化学 第4版	池尾 隆ほか 編	学建書院	2023年
教	歯学生のための基礎病理学	高田 隆 監、入江太郎ほか 著	医歯薬出版	2024年
教	新口腔病理学 第3版	下野正基ほか 編	医歯薬出版	2021年
教	現代歯科薬理学 第7版	鈴木邦明 監修	医歯薬出版	2024年
教	口腔微生物学・免疫学 第5版	川端重忠ほか 編	医歯薬出版	2021年
教	スタンダード歯科理工学：生体材料と歯科材料 第8版	中畠裕ほか 編	学建書院	2024年

教	新編歯科理工学 第7版	服部雅之、武本真治 編	学建書院	2024年
教	新編 衛生学・公衆衛生学 第1版	安井利一ほか 編	医歯薬出版	2025年
教	口腔保健・予防歯科学 第 2版	山下喜久ほか 編	医歯薬出版	2023年
教	スタンダード社会歯科学 第8版	尾崎哲則ほか 編	学建書院	2023年
教	保存修復学 第7版	千田彰ほか 編	医歯薬出版	2019年
教	保存修復学21 第7版	山本一世ほか 監修	永末書店	2026年
教	保存修復クリニカルガイド 第2版 動画付き	千田彰ほか 編	医歯薬出版	2025年

成績評価方法・基準・配点割合等

【前期・後期試験受験資格について】

- ・講義に規定数以上出席すること（前期・後期で各評価）。
- ・指定された範囲のDESS演習を実施すること。
原則として以上を満たすことを受験資格とする。

【前期・後期試験について】

- ・総合試験形式により実施する。

【成績評価について】

- ・前期・後期試験の点数により総合的に評価する。なお、春休み課題（レポート）の提出に不備があるものは、前期試験の点数より減点する。

到達目標	DP	レポート	前期試験	後期試験	その他	合計
1、2	4	2.7	27.3	70		100
合計		2.7	27.3	70		100

特記事項・その他（試験・レポート等へのフィードバック方法・アクティブラーニングの実施、ICTの活用 等）

ICTを用いた自学演習（DESS演習）を設定して、効率的且つ効果的な予習・復習をするための環境を整える。

当該科目に関連する実務教員の有無 … 有（大学病院等における医師や歯科医師の実務経験を有する教員が専門領域に関する実践的な教育を事例を交えて行う）

授業に使用する機械・器具と使用目的…特記すべき機械・器具等はございません。

使用機器・器具等の名称・規格	台数	使用区分	使用目的